

# みんなのページ

## エネルギー政策についての素人の考え

福島原発事故の後始末は、何十年もかかりそうです。その被害は放射線のなくなるまで、タンクに貯めた処理水を太平洋に流すなど、とんでもないことです。それなのに、六ヶ所村の再処理工場が基準に適合すると発表されました。原子力規制委員会は、7月29日、日本原燃六ヶ所再処理工場が、安全対策の基本方針が新規制基準に適合すると正式に決定しました。

しかし、完成時期は当初予定の1997年から24年ずれこんでいる、建設費も、7600億円から2兆9000億円に膨張し、現在も7000億円を投じた追加工事が進んでいるそうです。

打出の小槌のように国民から税金を集めるから出来ることです。

日本は資源がないから原発を手放せないと政府はいいますが、どうでしょうか。

日本中の住宅やビルの屋上に太陽光発電を乗せたら、どれだけの電気が賄えるでしょうか。山や海岸に風力発電の塔を建てたら、どれだけの電気が賄えるでしょうか。地熱利用の手もあります。海に囲まれた日本こそ、海の波のエネルギーを利用しない手はないでしょう。

専門家の方にこの計算をしていただきたい、得られる電力量と必要とする資金額とを。

原発と違って予定外の事故が起きても、その被害は放射線のように何十年も後を引くことはないでしょう。

石井玲子さん（千葉県在住）

## ご投稿をお待ちしています

「みんなのページ」は会員のみなさまの交流の場です。

テーマは問いません。ご投稿をお待ちしています。

メール (kaihou@kanbun.org) または  
郵送でお送りください。

## インターン生ご挨拶

はじめまして。今年の8月から、環境文明21にてインターンをさせて頂いています。岸波秀美（きしなみ ひでみ）と申します。私は現在、創価大学経済学部4年生で、環境経済の分野を専攻しています。ゼミの中でよく環境問題について討議するものの、いざ「自分の意見を社会に対して本当に主張できるのか」と問われると、言い返せない自分がいました。そこで、NPOとして政府や企業に対し政策提言を行ったり、地域住民に啓蒙活動を行ったりと、環境問題の根本となる社会改革に根差した環境文明21でインターンの経験を積みたいと思いました。

まだインターンを始めて日が浅いのですが、環境問題について学びながら業務ができるところが私は大好きです。今年から始まったオンラインのセミナーに参加する度、自分の知識の浅はかさを感じるとともに、もっと知りたいという気持ちが掻き立てられます。さらに、参加者の皆さんの意見や質問にもたくさん刺激され、学生同士だけでなく、年代や分野の垣根を超えた対話が重要なことを学びました。

また、今年のインターンは、自宅で業務に取り組む「在宅ワーク」という形式で行っています。今までに経験したことのない仕事スタイルを経験し、自分のできないことを思い知らされることが多いのですが、離れていても環境文明21の皆さんの温かさを感じ、業務に励むことができます。ここで学んだことを、これからも精一杯生かして恩返ししていきたいです。

岸波秀美（2020年度インターン生）